

## 腫瘍の2

### 1. 肺がん

組織分類：

小細胞癌

非小細胞癌

腺癌

扁平上皮癌

組織発生頻度：

腺癌>扁平上皮癌>大細胞癌、小細胞癌

#### 1) 小細胞癌

形態：細胞質が乏しい小型の細胞、びまん性増殖

発生部位：肺中枢側発生

浸潤転移頻度：遠隔転移、リンパ転移が高い

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：高い

予後：非常に悪い

#### 2) 扁平上皮がん

形態：がん細胞が敷石状の塊（胞巣）をつくって、

胞巣の中心では角化（かくか）した細胞がある

発生部位：肺中枢側発生（気管支）>末梢側発生

浸潤転移：遠隔転移、リンパ転移が低い

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：低い

予後：5年生存率15－40%

#### 3) 腺がん

形態：がん細胞が不規則な腺腔をつくって増殖する

発生部位：末梢側発生

浸潤転移：遠隔転移、リンパ転移が起こしやすい

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：低い

予後：5年生存率10－30%

#### 4) 大細胞がん

形態：扁平上皮がんへの分化も腺がんへの分化も示

さない型で、特定の配列を示さず増殖する

発生部位：中間くらい

浸潤転移：遠隔転移、リンパ転移が起こしやすい

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：低い

予後：5年生存率5－20%

### 2. 食道がん

形態：90%以上が扁平上皮癌

発生部位：中部最も多い50%、次いで下部食道20%

浸潤転移：周囲組織の直接浸潤が多い、リンパ転移も多い、癌組織が壊死になり食道穿孔し、周囲の縦隔に化膿性炎症が起こる

### 3. 胃がん

形態：腺がん

発生部位：幽門部小弯が多い

早期胃がん：粘膜または粘膜下層までにとどまる

肉眼分類：I 隆起型、II 表面型（IIa 表面隆起型, IIb 表面平坦型, IIc 表面陥凹型）、  
III 陥凹型

進行胃がん：がん細胞が固有筋層より深い浸潤する

肉眼分類（ボルマン分類）：1 型（隆起型）、2 型（潰瘍形成型）、3 型（潰瘍浸潤型）、  
4 型（びまん浸潤型）

### 4. 大腸がん

形態：腺がん

発生部位：最も発生頻度の高い部位は直腸で、次いでS状結腸、上行結腸の順である

浸潤転移：遠隔転移、リンパ転移、腹膜播種

抗がん剤や放射線治療に対して感受性：低い

### 5. 肝がん

形態：1) 肝細胞がん、2) 肝内胆管がん

B型肝炎、C型肝炎→慢性肝炎→肝硬変→肝癌

血液検査上以下の蛋白質が上昇する：

アルファフェトプロテイン AFP

ピブカーター PIVKA-II

### 6. 乳がん

形態：腺がん

非浸潤がん：がん細胞が乳管の中にとどまる

浸潤がん：間質に浸潤する

小葉がん

乳管がん

組織学的には浸潤性乳管がん 80%

特殊型：乳房パジェット病 (Peget's disease)

乳腺内に腫瘍をつくらず、乳頭部びらんのみを特徴とし、がん細胞が表皮内を拡大して増殖する。パジェット病は臨床的に炎症と鑑別診断が必要な疾患である

## 7. 脳腫瘍

### 分類

#### 原発性脳腫瘍

成人の脳腫瘍は大腦に好発する

児童では小脳や脳幹に好発する

原発性脳腫瘍が脳から他臓器に転移することは少ない

#### 転移性脳腫瘍

肺がんや乳がん等の脳転移

### 原発性脳腫瘍分類

#### 1)、神経上皮性腫瘍

神経細胞から発生する腫瘍は少ない

神経膠細胞から発生する腫瘍は多い：グリオーマ（神経膠腫）と総称する

下記の①～④、脳腫瘍の約半数

復習：

神経組織組成： 神経細胞と神経膠（グリア）＊

＊ 神経細胞の支持や栄養供給などを担当する組織（P16）

##### ①星細胞腫（アストロサイトーマ）

悪性度：低いものもあるがほとんどが高い

##### ②希突起膠腫（きとつきこうしゅ）（オリゴデンドログリオーマ）

悪性度：低いものもあるがほとんどが高い

##### ③上衣腫（エペンディモーマ）

悪性度：低いものもあるがほとんどが高い

##### ④膠芽腫（グリオブラストーマ）

（多形膠芽腫、神経膠芽腫、膠芽細胞腫）

悪性度一番高い グリオーマの約半数を占める

##### ⑤髓芽腫（メデュロブラストーマ）

悪性度：低いものもあるがほとんどが高い

小児に多く、小脳虫部、第4の脳室にできる

#### 2) 非グリオーマ群

①髄膜腫 ほとんどが良性腫瘍 脳腫瘍の15%、グリオーマ以外ではもっとも多い腫瘍、成人に発生する

②神経鞘腫（しんけいしょうしゅ） 良性腫瘍 内耳神経（聴神経、第8脳神経）から発生することが最も多く

③下垂体腺腫 良性腫瘍 視神経を圧迫する腫瘍である 成長ホルモン産生腺腫は巨人症を起す